医薬品リスク管理計画
(RMP)

本資材は医薬品リスク管理計画に
基づき作成された資材です

Tecentriq Handbook

「テセントリクによる治療を受けられる患者さんへ」
～知っておくべきことは?～

● テセントリクってどんなお薬?

がん細胞は免疫細胞(T細胞など)の働きにブレーキをかけ、免疫細胞による攻撃から逃れることができることがわかってきました。テセントリクは、そのブレーキがかからないようにし、免疫細胞ががんを攻撃しやすい状態に戻すお薬です。

作用:4ページ　治療前の確認:10ページ　投与方法:12ページ

● 緊急受診する場合の注意点は?

普段の生活に支障が出るほど体調が悪くなったときや気になる症状がある場合には、予約受診日以外でも速やかに医療機関に連絡してください。

医療機関への連絡が必要な症状:6ページ

● テセントリクの副作用は?

免疫細胞の働きが強くなりすぎることによる副作用が起こる可能性があります。
副作用の症状があらわれた際は、予約受診日以外でも速やかに医療機関に連絡してください。

気を付けてほしい症状:15ページ　副作用の詳細:18ページ

● 副作用の重症化を防ぐためには?

テセントリクの副作用は治療期間中・治療終了後もあらわれることがあります。普段の体調をしっかり把握しておいてください。体調の変化を感じたら、テセントリクによる治療を受けている医療機関の医師、薬剤師、看護師に相談してください。早期発見が重症化の防止および治療継続につながりますので、些細な変化も伝えるようにしてください。

詳細:36ページ

● 治療が終わった後の注意点は?

テセントリクの副作用は治療が終わった後もあらわれることがあります。治療期間中だけでなく治療終了後も「緊急連絡カード」を携帯し、治療終了後に医療機関を受診する際には「テセントリクの治療を受けていた」ことを伝えてください。

詳細:38ページ

● 治療期間中の妊娠と授乳の注意点は?

女性は治療期間中だけでなく、治療が終わってから5カ月間は妊娠を避けてください。
男性は特に避妊期間は定められていません。
なお一緒に使用する抗がん剤によっては、避妊期間が変更される可能性があります。

詳細:11ページ

ーより詳しい情報は各ページをお読みくださいー

目 次

「テセントリクによる治療を受けられる患者さんへ」
～知っておくべきことは?～ …… 2

テセントリクの作用は? …… 4

緊急受診が必要な症状 …… 6

緊急受診する場合の注意点 …… 8

日常生活での注意点 …… 9

テセントリク治療前に確認することは? …… 10

治療期間中の妊娠と授乳について …… 11

テセントリクの投与方法は? …… 12

テセントリクの副作用は? …… 14

テセントリクの注意を要する副作用 …… 15

参考 注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状 …… 32

副作用の重症化を防ぐために …… 36

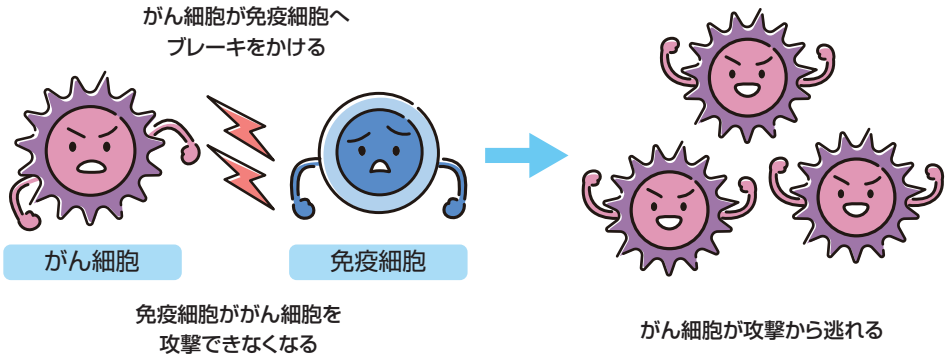
治療期間終了後の注意点 …… 38

テセントリク各種ハンドブックのご紹介 …… 39

アプリやWebサイトのご紹介 …… 40

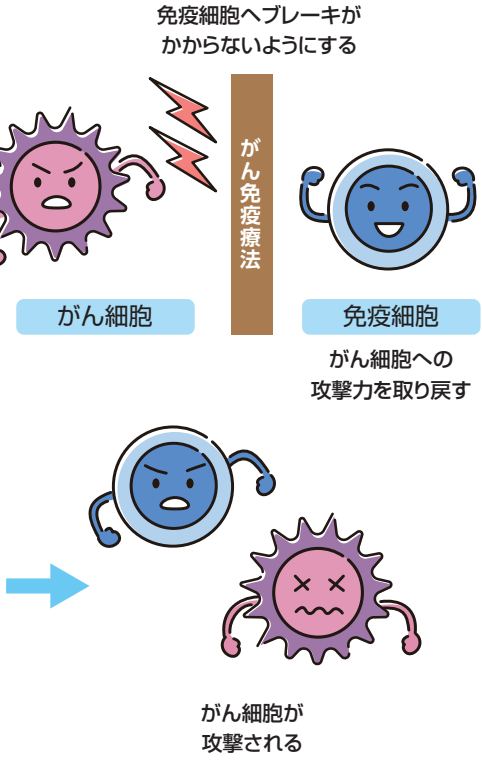
テセントリクの作用は？

免疫は、細菌やウイルスから、体を守ってくれている防御システムです。
私たちの体の中では、免疫細胞が、がん細胞などの異物を攻撃、排除し、健康を保っています。
しかし、がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかけ、その攻撃から逃れることが分かってきました。
がん細胞は、免疫細胞の働きにブレーキをかけるしくみの1つとして、がん細胞の表面に「PD-L1（ピーディーエルワン）」という物質を出します。このPD-L1が、がん細胞を攻撃する免疫細胞の表面にある「PD-1（ピーディーワン）」という物質に結合すると、免疫細胞の働きにブレーキがかかり、免疫細胞はがん細胞を攻撃できなくなってしまいます。



（イメージ図）

テセントリクは、抗PD-L1抗体とよばれるお薬です。
テセントリクはがん細胞の表面に出たPD-L1に結合することで、がん細胞から免疫細胞の働きにブレーキがかからないようにします。
この結果、免疫細胞は攻撃力を取り戻し、がん細胞を再び攻撃することができるようになります。



緊急受診が必要な症状

普段の生活に支障が出るほど体調が悪くなったときや以下の症状が発現した、もしくは続く場合は「抗がん剤治療をしていればこれくらいの体調不良は異常ではない」と思わずに、予約受診日以外でも速やかに医療機関に連絡してください。

医療機関への連絡が必要な症状の一例

■ 息切れ、息苦しい（以前よりも咳きこむ頻度が増えた）



■ 経験がないほどの激しい腹痛



■ 38℃以上の発熱



■ 強い頭痛



※多くの症例の中で一部の症状を示しており、他にも異なる症状を示す場合があります。

■ 考えがまとまらず、
意識がはっきりしない



■ 手足に力が入らない



■ 激しい下痢（いつもより
6回以上排便回数が増加）



■ 口が渇く、たくさんの
水分が欲しくなる



■ 動悸、胸が締めつけられる
ような痛み



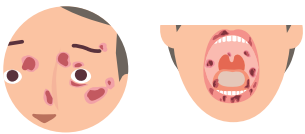
■ いつもより体がだるく、
休んでも回復しない



■ 以前より食欲がわかない
食事の回数が減った



■ 皮膚・粘膜（口の中や目など）
のはがれ、ただれ



緊急受診する場合の注意点

治療期間中、治療が終わった後に緊急受診しなければならなくなった場合に備えて、医療機関に連絡する際に何を伝えればよいか、どのように受診するかを考えておきましょう。

■ 医療機関に連絡する際、または受診の際には以下の内容を伝えましょう。

- 氏名、通院している診療科
- テセントリクによる治療を受けている（受けていた）こと
- いつから、どのような症状が出ているのか
- その症状によって、日常生活にどのくらい支障が出ているのか

■ どのように受診するかを考えておきましょう。

- 医療機関の連絡先（夜間の連絡先）は分かっていますか?
- 自分だけで医療機関に向かうことができる交通手段がありますか?
- 自分だけで医療機関に向かうことができない場合は、誰に連れて行ってもらいますか?



日常生活での注意点

治療期間中および治療終了後に気をつけるべき点について、あらかじめ確認しておきましょう。

■ 食事

■ 運動

■ その他



テセントリク治療前に確認することは?

以下にあてはまる方は、
治療を受ける前に医師にお知らせください。

- 以前にテセントリクに対して、強いアレルギー症状が出たことのある方

  ➡テセントリクによる治療を受けることができません。

- 自己免疫疾患のある方、または慢性的もしくは再発性の自己免疫疾患にかかったことのある方

  ➡テセントリクを投与すると自己免疫疾患の症状があらわれたり、悪化するおそれがあります。

  自己免疫疾患: 免疫細胞が、体を構成している正常な細胞を攻撃してしまう病気(関節リウマチ、乾癬、シェーグレン症候群など)

- 間質性肺疾患のある方、または間質性肺疾患にかかったことのある方

  ➡テセントリクを投与すると間質性肺疾患の症状があらわれたり、悪化するおそれがあります。

  間質性肺疾患: 肺は小さな風船のような袋がたくさん集まってできており、その小さな袋やその周りの薄い壁に炎症が起こり、腫れたり、硬くなってしまう病気

治療期間中の妊娠と授乳について

妊娠中にテセントリクを投与した場合、お腹の赤ちゃんに影響を与える可能性があります。そのため治療期間中だけでなく、治療が終わってから5カ月間は妊娠を避けてください。また、男性患者さんにテセントリクを投与した場合の避妊に関する規定はありません※。妊娠していることが分かった場合は、主治医の先生に相談しましょう。また、授乳によりお薬の成分が赤ちゃんの体に入ってしまう可能性がありますので、治療期間中の授乳についても継続または中止を検討する必要があります。

※一緒に使用する抗がん剤によっては避妊期間が変更される可能性があります。



5カ月

治療期間中だけでなく、
治療終了後5カ月間は妊娠を
避けてください。



授乳の継続または中止を検討

テセントリクの投与方法は？

点滴により30～60分間で投与します

テセントリクは点滴で投与します。1回目の点滴は60分間かけて行われ、その際に特に副作用がみられなければ、2回目以降の点滴は30分間で行うことができます。

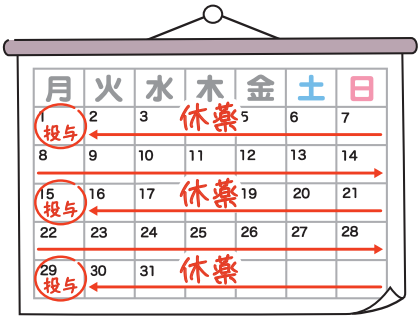


1回目は60分間　　2回目以降は30分間

テセントリクは、がん種や投与時期によって お薬の投与量や投与方法が異なります

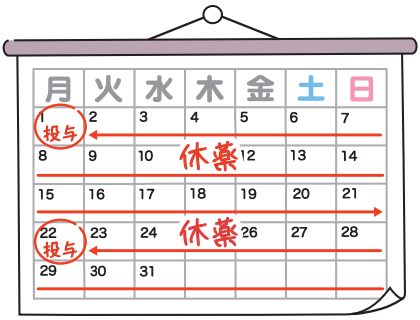
■ 2週間ごとに投与する場合

テセントリクを2週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約13日間お休み（休薬）するという治療サイクルを繰り返します。



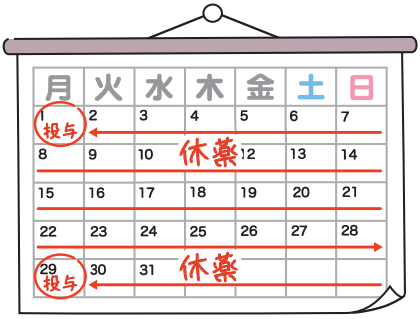
■ 3週間ごとに投与する場合

テセントリクを3週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約20日間お休み（休薬）するという治療サイクルを繰り返します。



■ 4週間ごとに投与する場合

テセントリクを4週間ごとに投与する場合、1回投与を受けた後は約27日間お休み（休薬）するという治療サイクルを繰り返します。



非小細胞肺がんの術後補助療法の場合は、最大12カ月間投与を繰り返します。

テセントリクの副作用は？

テセントリクは免疫細胞を元気にして、がん細胞を攻撃する治療法であるため、免疫細胞の働きが強くなりすぎることによる副作用があらわれることがあります。いくつかの副作用が同時に、あるいは続けて起こる可能性もあります。
副作用はすべての患者さんに起こるとは限りません。
また、症状の強さには個人差があり症状がいくつかみられることもあります。
治療が始まる前にどのような副作用が起こる可能性があるのかを知っておき、**「いつもと違う」「気になる」症状があらわれたときは、我慢せずに速やかに医師、看護師、薬剤師にご相談ください。**
副作用を早く見つけ、適切に対処することが治療を安全に続けるためにとても重要です。

■ 副作用のあらわれやすい時期

免疫チェックポイント阻害薬では、

- **副作用は投与開始から3～6カ月以内にあらわれることが多く、**
- **重い副作用は1～2カ月以内に起こる傾向があります。**

また、免疫チェックポイント阻害薬による副作用は治療期間中だけでなく、治療が終わった後にもあらわれることがありますのでご注意ください。

テセントリクの注意を要する副作用

- 間質性肺疾患
- 肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎（こうかせいたんかんえん）
- 大腸炎、重度の下痢
- 膵炎（すいえん）
- 1型糖尿病
- 甲状腺機能障害（こうじょうせんきのうしょうがい）
- 副腎機能障害（ふくじんきのうしょうがい）
- 下垂体機能障害（かすいたいきのうしょうがい）
- 脳炎、髄膜炎（ずいまくえん）、脊髄炎（せきずいえん）
- 神経障害
- 重症筋無力症（じゅうしょうきんむりょくしょう）
- 重度の皮膚障害
- 腎機能障害
- 筋炎、横紋筋融解症（おうもんきんゆうかいしょう）
- 心筋炎
- 血球貪食症候群（けっきゅうどんしょくしょうこうぐん）
- 免疫性血小板減少症（めんえきせいけっしょうばんげんしょうしょう）
- 溶血性貧血
- 血管炎
- ぶどう膜炎
- 重度の胃炎、食道炎
- 薬剤の注入に伴う反応
- 発熱性好中球減少症※

※テセントリクと他のお薬を一緒に使った場合（カルボプラチンおよびパクリタキセル併用時並びにカルボプラチン、パクリタキセルおよびアバスチン併用時）にあらわれることがあります。

テセントリクの注意を要する副作用



甲状腺（こうじょうせん）

- 甲状腺機能障害（こうじょうせんきのうしょうがい）……P.21

心臓

- 心筋炎……P.26

肺

- 間質性肺疾患……P.18

肝臓

- 肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎（こうかせいたんかんえん）……P.19

副腎（ふくじん）

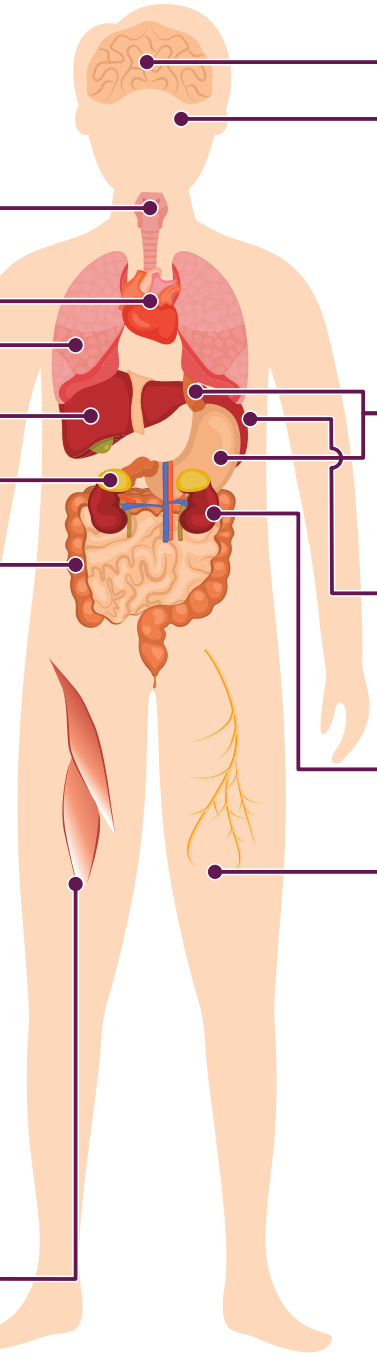
- 副腎機能障害（ふくじんきのうしょうがい）……P.22

腸

- 大腸炎、重度の下痢……P.19

筋肉

- 重症筋無力症（じゅうしょうきんむりょくしょう）……P.24
- 筋炎、横紋筋融解症（おうもんきんゆうかいしょう）……P.25



脳

下垂体機能障害……P.22
脳炎、髄膜炎、脊髄炎……P.23

目

ぶどう膜炎……P.28

食道、胃

重度の胃炎、食道炎……P.29

膵臓

膵炎……P.20
1型糖尿病……P.20

腎臓

腎機能障害……P.25

神経

神経障害……P.23

その他

重度の皮膚障害……P.24
血球貪食症候群……P.26
免疫性血小板減少症……P.27
溶血性貧血……P.27
血管炎……P.28
薬剤の注入に伴う反応……P.30
発熱性好中球減少症※……P.30

※テセントリクと他のお薬を一緒に使った場合（カルボプラチンおよびパクリタキセル併用時並びにカルボプラチン、パクリタキセルおよびアバスチン併用時）にあらわれることがあります。

テセントリクの注意を要する副作用

副作用は、テセントリクによる治療期間中だけでなく、治療が終わった後にもあらわれることがあります。注意が必要な副作用について、主な症状をご紹介します。早期に発見し、適切に対処することが大切です。気になる症状がみられた場合は我慢せず速やかに医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

▶ 間質性肺疾患

肺の壁が炎症により厚く硬くなり、膨らみにくくなる病気です。肺が硬くなると酸素をうまく取り込めなくなるため、呼吸が苦しくなります。

重症化した場合、命にかかわることがありますので、注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 息切れ、息苦しい
- 咳が出る
- 発熱



MEMO

肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎（こうかせいたんかんえん）

肝臓の機能が低下したり、肝臓や胆管に炎症が起こる病気です。血液検査では肝機能検査値（AST、ALT、ALP、γ-GTP、ビリルビンなど）が高くなります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 体がだるい
- 発熱
- 吐き気、嘔吐
- 食欲がない
- 白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、尿が赤色になる
- かゆみ
- 腹痛



大腸炎、重度の下痢

大腸の炎症や、それによる重度の下痢が起こることがあります。下痢を放置すると、脱水症状を起こすため、水分を多めにとるなどの注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- いつもより排便回数が多い
- 便が泥状か水のようになっている、便に血が混じる
- 腹痛



テセントリクの注意を要する副作用

膵炎（すいえん）

膵臓に炎症が起こる病気です。血液検査ではアミラーゼの増加やリパーゼの増加がみられます。お腹の痛みはのけぞると強くなり、かがむと弱くなります。

次のような症状がみられる場合があります。

- お腹の上部の痛み
- 背中の痛み
- 吐き気、嘔吐



1型糖尿病

膵臓からインスリンが分泌されなくなり、糖尿病を発症することがあります。インスリン注射による治療が必要になることもあります。急速に1型糖尿病が進行する場合があり、意識障害や、その前兆として吐き気や嘔吐があらわれることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 口が渇く
- たくさんの水分が欲しくなる（水分をとってもすぐにのどが渇く）
- 尿の量や回数が増える
- 疲れやすい
- 体重が減る
- 吐き気、嘔吐
- 腹痛
- 意識がはっきりしない



こうじょうせんきのうしょうがい 甲状腺機能障害

甲状腺に炎症が起こり、甲状腺ホルモンが過剰になる、または低下する病気です。甲状腺ホルモンが過剰になった後、低下する場合があるので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

<甲状腺ホルモンが過剰になることであらわれる症状>

- 動悸
- 暑がり、汗を多くかく
- 発熱
- ふるえ
- いつもより排便回数が多い
- 便が泥状か水のようになっている
- 体重が減る
- 体がだるい

<甲状腺ホルモンが低下することであらわれる症状>

- 体がだるい
- 食欲がない
- 便秘
- 脈が遅くなる
- 体重が増える

MEMO

副腎機能障害（ふくじんきのうしょうがい）

副腎に炎症が起こり、副腎の機能が低下する病気です。
急性の場合は意識がうすれることがありますので、注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 気力の低下
- 疲れやすい
- 体重が減る
- 食欲がない
- 吐き気、嘔吐
- 血圧の低下
- 腹痛
- いつもより排便回数が多い
- 便が泥状か水のようになっている
- 発熱

下垂体機能障害（かすいたいきのうしょうがい）

下垂体に炎症が起こり、下垂体の機能が低下する病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 頭痛
- 物が見えにくい
- 乳汁分泌
- 体がだるい、疲れやすい
- 月経がない
- 尿の量や回数が増える
- 口が渇く
- たくさんの水分が欲しくなる
- 食欲がない



脳炎（のうえん）、髄膜炎（ずいまくえん）、脊髄炎（せきずいえん）

脳や髄膜（脳や脊髄を覆っている膜）、脊髄に炎症が起こる病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 両足のしびれ、両足が動かしづらい
- 頭痛
- 発熱
- 便・尿が出にくい、便・尿失禁
- 腰・背中の痛み
- うなじがこわばり固くなって、首を前に曲げにくい
- 吐き気、嘔吐
- 意識がはっきりしない

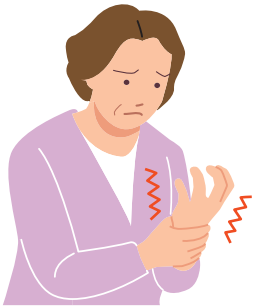


神経障害

全身の筋肉を動かす運動神経や皮膚の感覚などを伝える感覚神経、内臓の働きを調節する自律神経などの働きが悪くなる病気です。症状がひどくなると食べ物が飲み込みにくくなったり、呼吸が苦しくなることもあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 手足がピリピリしびれる、ジンジン痛む
- 手足の感覚がなくなる
- 手足に力が入らない
- 物がつかみづらい
- 歩行時につまづく
- 手足の皮膚が冷たい



テセントリクの注意を要する副作用

重症筋無力症（じゅうしょうきんむりょくしょう）

神経から筋肉にうまく信号が伝わらなくなるために、筋力の低下が起こる病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- まぶたが下がったまま戻らない
- 物が二重に見える
- 手足に力が入らない
- 食べ物がうまく飲み込めない
- 息苦しい



重度の皮膚障害

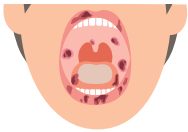
発熱と広い範囲にわたる皮膚や粘膜の障害が起こることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 目の充血
- まぶたの腫れ
- のどが痛む
- 水ぶくれ
- 皮膚・粘膜のはがれ・ただれ
- 関節（手足の甲、ひじ、ひざなど）部分もしくは広範囲にわたり皮膚が赤くなる







粘膜（口の中や目など）のはがれ、
ただれなどの障害も起こることがあります。

腎機能障害

腎臓に炎症が起こり、腎臓の機能が低下する病気です。血液検査ではクレアチニンなどの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 発疹
- 関節痛
- 吐き気、嘔吐
- 食欲がない
- 体がだるい
- 便が泥状か水のようになっている
- 尿の量が減る
- むくみ

筋炎、横紋筋融解症（おうもんきんゆうかいしょう）

筋肉の細胞が壊れることにより、痛みを感じたり力が入らなくなる病気です。血液検査ではクレアチンキナーゼやミオグロビンの上昇がみられます。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 体がだるい
- 疲れやすい
- 食欲がない
- 体重が減る
- 筋肉痛
- 手足に力が入らない
- 息苦しい
- 尿が赤褐色になる

心筋炎

心臓の筋肉(心筋)に炎症が起こり、心臓の機能が低下する病気です。
血液検査ではクレアチンキナーゼの上昇がみられます。
重症化した場合、命にかかわることがありますので、注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 胸の痛み
- 体がだるい、疲れやすい
- 息切れ、息苦しい
- 手足のむくみ
- 動悸



血球貪食症候群(けっきゅうどんしょくしょうこうぐん)

免疫に関わる細胞が過剰に反応した状態が続くことで、血小板・赤血球・白血球などを食べてしまうような状態を引き起こし、さまざまな症状があらわれることがあります。急速に重症化した場合、命にかかわることもありますので注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 発熱
- 発疹
- 体がだるい、疲れやすい
- 腹痛
- いつもより排便回数が多い
- お腹が張る
- 出血、血が止まりにくい
- けいれん
- 顔のむくみ
- 便が泥状か水のように
  なっている

免疫性血小板減少症（めんえきせいけっしょうばんげんしょうしょう）

免疫抗体の異常により、自己免疫が自身の正常な血小板を攻撃することで起こる病気です。その結果、出血を止める役割の血小板の数が減少し、出血しやすくなったり、血が止まりにくくなったりします。

次のような症状がみられる場合があります。

- 点状や斑状の皮膚にみられる出血
- 青あざができる
- 歯ぐきからの出血、口内の出血
- 鼻血
- 便に血が混じったり、黒い便が出る
- 尿に血が混じって、赤色やピンク色、赤茶色など、通常とは異なる色になる
- 月経過多、経血が止まりにくい

溶血性貧血

赤血球が減少することにより、主に貧血を起こす病気です。

次のような症状がみられる場合があります。

- めまい
- 疲れやすい、だるい
- 動悸・息切れ
- 頭痛
- 顔が蒼白（あお）くなる
- 白目や皮膚が黄色くなる（軽い黄疸）
- 尿が赤くなる

▶ 血管炎

血管に炎症が起こる病気です。全身の大小あらゆる血管に炎症が生じることがあり、全身症状があらわれることがあります。また、炎症が起きた血管の場所や臓器によって、さまざまな症状があらわれることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 頭痛、発熱、倦怠感（体のだるさ）、体重減少、関節の痛み
- 点状や斑状の皮膚にみられる出血
- 両腕の血圧に差が出る（片側の脈が弱くなる）
- 尿に血が混じって、赤色やピンク色、赤茶色など、通常とは異なる色になる
- 痰に血が混じる
- 腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る
- 手足のしびれ、手足に力が入らない
- 視力低下、視界がぼやける、視野の一部が欠けて見える、黒い点や影が見える

▶ ぶどう膜炎

目の中に炎症を起こす病気です。

目の症状のほかに、全身の症状（頭痛、耳鳴り、皮膚の一部が白くなる白斑、白髪など）があらわれることもあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 目の充血
- まぶしく感じる
- 目に痛みを感じる
- 視力の低下
- かすみがかかったように見える
- 虫が飛んでいるように見える

▶ 重度の胃炎、食道炎

● 重度の胃炎

胃の内側の粘膜に炎症が起こる病気です。みぞおちのあたりの痛みや吐き気があらわれ、食事がとりにくくなります。症状が続くと脱水や栄養不足につながることがあるため、注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- みぞおち・上腹部の痛み
- 吐き気、嘔吐
- 食欲がない
- 少し食べただけで満腹になる
- 黒い便が出る、血を吐く

● 重度の食道炎

のどと胃をつなぐ食道の粘膜に炎症が起こる病気です。飲み込むときの痛みやつかえる感じがあらわれ、食事や水分がとりにくくなります。食事や水分がとれない状態が続くと、脱水や栄養不足につながることがあるため、注意が必要です。

次のような症状がみられる場合があります。

- 飲み込むときに痛い
- 飲み込みにくい
- 胸やけがする
- 胸の中央（胸骨の裏側）の痛み
- 食べ物がつかえる感じがする

薬剤の注入に伴う反応

点滴中または投与後に、アレルギーのような症状があらわれることがあります。これらの症状は、1回目の投与時にあらわれることが多いですが、2回目以降にあらわれることもあります。薬剤の注入に伴う反応のうち「サイトカイン放出症候群」は、発熱を伴い、投与後数日してあらわれることがあります。

次のような症状がみられる場合があります。

- 吐き気、嘔吐
- 注射部位のほてり、痛み
- かゆみ
- 息切れ、息苦しい
- 発熱
- 発疹
- 血圧が低い
- 脈が速い
- めまい・ふらつき



発熱性好中球減少症

体に侵入してきた異物（細菌、ウイルスなど）から体を守っている白血球・好中球が減少し、37.5℃以上に発熱した状態をいいます。テセントリクと他のお薬を一緒に使った場合（カルボプラチンおよびパクリタキセル併用時並びにカルボプラチン、パクリタキセルおよびアバスチン併用時）にあらわれることがあります。



MEMO

参　考

注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状①：全身、顔周りにみられるもの

	症　状	間質性肺疾患	肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎	大腸炎、重度の下痢	膵炎	1型糖尿病	内分泌機能障害	脳炎、髄膜炎、脊髄炎	神経障害	
全身症状	頭痛						●	●		
	発熱	●	●				●	●		
	意識がもうろうとする					●		●		
	けいれんが起きる									
	むくみ									
	体重増加						●			
	体重減少					●	●			
	体がだるい、疲れやすい		●	●			●			
	ふるえ						●			
	暑がり、汗を多くかく						●			
	出血、血が止まりにくい									
	腰・背中の痛み				●			●		
	めまい									
	関節痛									
	血圧が低い									
	脈が速い									
	胸の痛み									
	動悸						●			
顔周りに出る症状	目の充血									
	物が見えにくい						●			
	口が渇く					●				
	うなじがこわばり固くなって、首を前に曲げにくい							●		
	白目や皮膚が黄色く見える		●							

※テセントリクと他のお薬を一緒に使った場合（カルボプラチンおよびパクリタキセル併用時並びにカルボプラチン、パクリタキセルおよびアバスチン併用時）にあらわれることがあります。

発熱性好中球減少症※	薬剤の注入に伴う反応	重度の胃炎、食道炎	ぶどう膜炎	血管炎	溶血性貧血	免疫性血小板減少症	血球貪食症候群	心筋炎	筋炎、横紋筋融解症	腎機能障害	重度の皮膚障害	重症筋無力症
			●	●	●							
●	●			●			●		●	●	●	
							●					
							●	●		●		
				●					●			
				●	●		●	●	●	●		
						●	●					
	●				●							
				●						●		
	●											
		●						●				
					●			●				
			●								●	
			●	●								●
					●							

参　考

注意が必要なテセントリクの副作用にみられる症状②：呼吸器、食道・胃腸、手足、排泄でみられるもの

	症　状	間質性肺疾患	肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎	大腸炎、重度の下痢	膵炎	1型糖尿病	内分泌機能障害	脳炎、髄膜炎、脊髄炎	神経障害	
呼吸症状	咳が出る	●								
	息切れ、息苦しい	●								
食道・胃腸症状	腹痛		●	●	●	●				
	吐き気、嘔吐		●		●	●	●	●		
	食欲がない		●				●			
	飲み込み時の違和感や痛み									
手足に出る症状	手足や体の一部の感覚がなくなる								●	
	手足に力が入らない								●	
	両足のしびれ、両足が動かしづらい							●		
	かゆみ、発疹、水ぶくれ		●							
排泄症状	尿が赤くなる		●							
	尿の量や回数が増える					●	●			
	便・尿が出にくい、便・尿失禁							●		
	排便回数が多くなる			●			●			
	血便			●						
	便秘						●			

※テセントリクと他のお薬を一緒に使った場合（カルボプラチンおよびパクリタキセル併用時並びにカルボプラチン、パクリタキセルおよびアバスチン併用時）にあらわれることがあります。

	発熱性好中球減少症※	薬剤の注入に伴う反応	重度の胃炎、食道炎	ぶどう膜炎	血管炎	溶血性貧血	免疫性血小板減少症	血球貪食症候群	心筋炎	筋炎、横紋筋融解症	腎機能障害	重度の皮膚障害	重症筋無力症
		●				●			●	●			●
			●		●			●					
		●	●								●		
			●							●	●		
			●										●
					●								
					●					●			●
					●							●	●
		●						●			●	●	
					●	●	●			●			
								●					
			●		●		●						

副作用の重症化を防ぐために

副作用は治療期間中だけでなく治療が終わった後にもあらわれることがあります。副作用の重症化を防ぐためには、副作用に早めに気づき、対応することが重要です。副作用に早く気づくために、普段の体調をきちんと把握しておきましょう。

医師に気になる症状を伝える際には、普段の体調とどのくらい違うのか、その症状によって日常生活にどのくらい支障が出ているのかを話すと、症状の強さを上手に伝えることができます。

ダイアリーにご自身の日々の体調を記入することで、普段の状態やその変化がより把握しやすくなります。体調がいつもと違うと感じたときは、ダイアリーを活用しながら、医師、看護師、薬剤師に相談することで、重症化する前に副作用に気づくことができ、適切な対応を開始することができます。

テセントリクによる治療を行う前に
普段の体調をチェックしておきましょう。

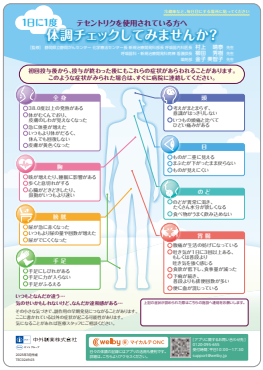
例えば…

- 平熱
- 体重
- 視力
- 1日の飲料水の量
- 排便回数
- 排尿回数
- 呼吸器の症状（咳の回数や息苦しさ）

など

体調の変化に気づけるよう、体調チェックシートも活用してください。冷蔵庫など、毎日目にする場所に貼って、注意が必要な症状を見逃さないようにしましょう。

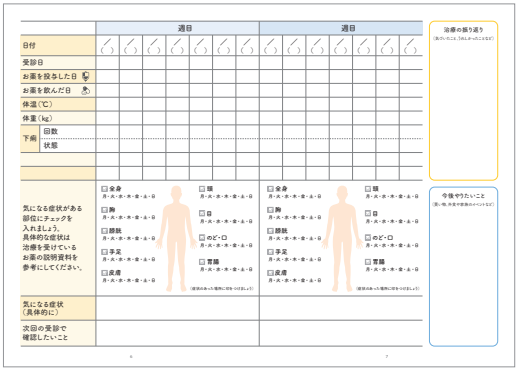
<体調チェックシート>



体調の変化を記録するために、ダイアリーを患者さんの疾患に応じてご用意しています。ご要望がございましたら、看護師、薬剤師にお問い合わせください。

<ダイアリー>





※画像はどのような疾患の患者さんもご使用いただけるダイアリーです。このダイアリー以外にもテセントリクのダイアリーは患者さんの疾患に応じてそれぞれご用意しています。ご自身の疾患に合ったダイアリーをご活用ください。

治療期間終了後の注意点

副作用は治療期間中だけでなく治療が終わった後にもあらわれることがあります。

治療期間中、治療が終わった後も「緊急連絡カード」を携帯し、体調不良などで医療機関を受診した際には、「テセントリクによる治療を受けていた」ことを必ず伝えるようにしてください。

<緊急連絡カード>

テセントリクの治療を受けた患者さんへ

このカードは、テセントリクの治療を受けた患者さんへの注意点をまとめています。常に携帯してください。

テセントリクの治療を受けた病院や主治医以外の治療を受ける場合は、このカードを必ずご提示ください。

患者さんにご注意いただきたいこと

●テセントリクによる治療期間中だけでなく治療が終わった後も注意が必要な副作用について、主な症状を裏面にご紹介します。早期に発見し、適切に対処することが大切ですので、裏面の症状に注意し、気になる症状がみられた場合は、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

●主治医以外の医療機関を受診する場合は、このカードを提示して、テセントリクの治療中であることをお伝えください。

テセントリク各種ハンドブックのご紹介

テセントリクのハンドブックやダイアリーは、このハンドブック以外にも患者さんの疾患に応じてそれぞれご用意しています。ご自身の疾患に合ったハンドブックやダイアリーもご活用ください。

<テセントリクのハンドブック>

■ 肺がん

単剤療法



併用療法



術後補助療法



■ 乳がん



■ 肝細胞がん



■ 胞巣状軟部肉腫（ほうそうじょうなんぶにくしゅ）



■ 節外性NK/T細胞リンパ腫・鼻型



■ 胸腺がん



※テセントリクのハンドブックを示しています。この他に患者さんの疾患に応じたダイアリーもご用意があります。

アプリやWebサイトのご紹介

治療を受けられる患者さん向けのアプリやWebサイトもございますので、ご活用ください。

治療を受けられる患者さん向けに、治療期間中の体調変化を記録するアプリがございますので、ご活用ください。

アプリ（WelbyマイカルテONC）に関するお問い合わせ先

登録方法、サービス内容など、ご不明な点はお気軽にご質問ください。スタッフがていねいに対応いたします。

0120-095-655

受付時間：平日10：00～17：30

support@welby.jp

運営会社　株式会社Welby

テセントリクによる治療を受けられる患者さん向けwebサイトもありますので、ご活用ください。

URL：**https://pat.tecentriq.jp/**

MEMO

MEMO

監修（承認適応順）

静岡県立静岡がんセンター
新規治療開発科部長、呼吸器内科医長 村上 晴泰 先生
看護部 看護師長 柳田 秀樹 先生
RMQC室 金子 美智子 先生

名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター
臨床研究戦略部 先端医療・臨床研究開発学分野 特任教授 岩田 広治 先生

愛知県がんセンター
薬剤部 前田 章光 先生

国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院
副院長 肝胆膵内科長 池田 公史 先生

CHUGAI 中外製薬
Roche ロシュ グループ

2026年10月改訂
TEC0296.09